

十勝の2014年度取引頭数は前年度比0.5%増の1万7498頭。上位5市場で前年を上回ったのは十勝のみ。2位は鹿児島県の曽於(そお)中央家畜市場で同6.2%減の1万6475頭だった。

十勝の黒毛和種飼育戸数(肥育含む)は500戸ほどで減少傾向にあるが、近年の取引頭数は増えている。要因は個人農家が離農しても、他の農家や法人が規模拡大で頭数を増やしていることがある。

乳牛からの出産増加

酪農が盛んな十勝では、初妊牛の出産が楽になるよう、体の小さい黒毛和種を受精卵移植して産ませる農家も多い。近年は和牛子牛の頭数不足による価格高騰で、積極的に黒毛を種付けする酪農家が増えている。

黒毛和種の主産地は九州で、これまで曾於中央が取引頭数で1位になることが多かった。九州では宮崎県で10年に発生した口蹄(こうてい)疫の影響を受け、全国的にも福島第1原子力発電所事故の影響などで、繁殖農家が減少。畜産関係者によると「十勝地区家畜市場が全国1位になるのは初めてでは」との声もある。

十勝和牛振興協議会の鈴木英博会長(大樹町・サンエイ牧場理事)は「十勝の市場に多くのお客さまが集まってくれるのは良いこと」と話す。一方で「子牛不足で価格が上がり続けており、肥育農家の負担が心配。繁殖農家の減少で牛肉生産が減り、輸入牛肉が増える可能性もある。乳牛に和牛ばかり産ませると、乳牛不足も進んでしまう」と懸念も示す。

農業ガイド1012号

2015年6月13日

鈴木さん(芽室)所有牛全国トップ 2014年スーパーカウランク

日本ホルスタイン登録協会北海道支局(札幌)は、2014年の国内スーパーカウ(年間乳量2万キロ以上の乳牛)のランキングをまとめた。全国で前年比7頭増の35頭がランクインし、うち十勝の牛は6頭増えて13頭だった。国内トップは芽室町の鈴木進さん(55)が所有する「スミーデール マリル イブ リンゼイ」で、2万5852キロを記録した。

全国35頭、十勝は6増13頭

順位・名号・所在地/所有者(敬称略)・乳量	
① スミーデールマリルイブリンゼイ 芽室町/鈴木進	2万5852kg
③ YKTテツチエシヤネル 帯広市/杉浦尚	2万4665kg
⑧ スリーバレーファームリーダーミドリ 芽室町 鈴木進	2万1645kg
⑨ YKTテツチエシルバー 帯広市/杉浦尚	2万1562kg
⑫ JリードバクスターマウイブレットET 豊頃町/Jリード	2万1166kg
⑬ マリーアースブルーブラッド 大樹町/坂井正喜	2万1038kg
⑯ ヒンベルチャームジエファナ 大樹町/大左古宏	2万0886kg
⑰ ティーユーレディスマナーズジュテーム 芽室町/鈴木進	2万0729kg
⑳ キューバエモリスローカム 広尾町/久保進	2万0630kg
㉒ YKTステーションデリア 帯広市/杉浦尚	2万0402kg
㉔ マラソンソーサブリッツ 中札内村/水崎勝秀	2万0318kg
㉘ スミーデールダンディーエミイET 芽室町/鈴木進	2万0194kg
㉙ TLMイケメンナイト 帯広市/十勝ライブストックマネージメント	2万0085kg

鈴木さんがトップを獲得するのは2年ぶり、十勝の牛が全国1位となるのは4年連続。

トップの牛は04年12月24日生まれで、6産目。鈴木さんは「30年以上前に導入した牛の血統で、能力が高く、今後も後継牛が残って活躍してくれている。海外の優秀な輸入卵を導入する方法もあるが、自分の育ててきた牛で1位はうれしい」と話

す。十勝の平均産次数が3産ほどの中、今年も7産目で2万キロを超える見込みで、「できるだけ健康に飼っていきたい」とする。

鈴木さんは計約120頭を飼養する中、この牛に加え、8位、19位、28位の計4頭をランク入りさせた。

昨年1位だった帯広市の杉浦尚さんは3位、9位、22位の3頭のスーパーカウを輩出した。

この他の十勝からのランク入りは12位にJリード(豊



国内トップの乳量を記録した「スミーデール マリル イブ リンゼイ」号と鈴木進さんの息子の賢さん(26)

頃町)、13位に坂井正喜さん(大樹町)、16位に大左古宏さん(大樹町)、20位に久保進さん(広尾町)、24位に水崎勝秀さん(中札内村)、31位に十勝ライブストックマネージメント(帯広市)。8個人・法人がスーパーカウを出した。

国内のスーパーカウは10年41頭、11年32頭、12年29頭、13年28頭と減少していたが、4年ぶりに増加した。全国的に生乳生産量が減る中だが、十勝は生産量を伸ばしている。スーパーカウ全35頭の4割近い13頭を輩出した十勝管内の生産者の改良努力が、十勝の生産を支えている。